

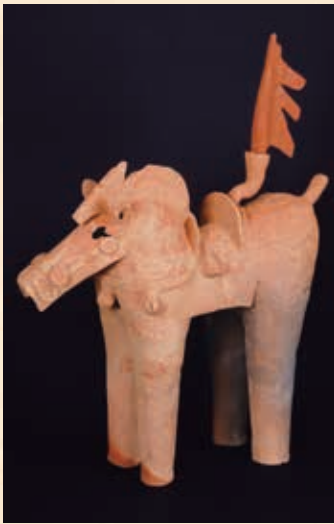
海を渡って来た文化

「市報ぎょうだ」7月号で古墳時代の物流について紹介しましたが、当時は遠く朝鮮半島からもさまざまな文物が市域にもたらされていたようです。

埼玉古墳群の稲荷山古墳から出土した轡（f字形鏡板付轡）は、鏡板の縁に刻みが施されています。同様な轡は朝鮮半島でしばしば出土していますが、国内では他に1例出土例があるだけです。この轡は外来系の轡と考えられ、5世紀末ごろには朝鮮半島の文物が行田まで伝わっていたことが伺えます。

6世紀後半に築かれた埼玉古墳群の將軍山古墳から出土した馬具や、酒巻古墳群の酒巻14号墳から出土した埴輪にも外来系の文物が多く見られます。

將軍山古墳から出土した馬冑（馬の鎧兜）は、国内では他に1例出土例があるだけの貴重な



酒巻14号墳出土の「旗指物を立てた馬形埴輪」

重な馬具ですが、朝鮮半島製と考えられています。同古墳出土の轡（金銅製心葉形十字文鏡板付轡）も朝鮮半島の高句麗にルーツを持つものです。雲珠、辻金具、鈴などの馬具も朝鮮半島で同様のものが多く出土しています。旗指物を立てる馬具である蛇行状鉄器も、馬冑とともに朝鮮半島の古墳壁画に描かれている外来系の珍しい馬具です。

酒巻14号墳からは、この蛇行状鉄器を付けて旗指物を立てた姿を表わした国内唯一の馬形埴輪が出土しています。この馬形埴輪と共に国内では他に1古墳でしか出土例がない筒袖の衣装を着た人物埴輪や、ふんどしをした力士と思われる人物埴輪も出土しています。筒袖の衣装は、当時の朝鮮半島の古墳壁画に描かれた半島の人々の衣装とよく似ています。また、力士の姿も壁画に見られます。

力士の埴輪は吉見町の和名埴輪窯でつくられたと推測されますが、古墳を築いた人物や埴輪をつくった工人が、朝鮮半島の人々の服装や力士の姿を知っていた可能性が高いと思われます。

朝鮮半島の人々がはるばる行田までやって来たのかもしれない。（文化財保護課 中島洋一）

こぜに ちゃんが 行く!

成就院三重塔

長野地内にある成就院三重塔。この塔は、享保14年(1729)に建立されたもので、県の指定有形文化財に指定されているんだ。
高さ10メートルの三重塔は、宮大工ではない地元の大工さんによって建てられたのが特色。また、江戸時代に建てられた三重塔は県内では3基しかなく、とても貴重な建物なんだって。古代蓮の里の近くにあるから、古代蓮の里を訪れたときには、みんなで立ち寄ってくださいね。

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんที่ 分かりやすく紹介します。



今月の表紙

6月30日、浮き城のまち行田サイクルサポーターズ発足式が行われました。
市では、自転車利用者が快適に市内の観光施設を回遊できるよう「浮き城のまち行田サイクルサポーターズ制度」を創設。「ポタリングのまち行田」の第一歩となる発足式に、ポタガール埼玉の後口紗織さん(写真右)、筒井麻由さん(写真左)と空気入れの貸し出しやトイレの提供など自転車利用者の支援を行う市内の協力店舗の皆さんが参加しました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています